
メリーポピンズ豊洲ルーム

令和4（2022）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

株式会社 学研データサービス



1. 東京都第三者評価推進機構提出内容

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・野外体験を提案実践し”自分で考え、行動する思考”を育みます。 2)10よりも100の経験を与え、子どもが”したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。 3)”感じたこと・考えたこと”を言葉でジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。 4)「0を1にかえる力」を日本中の子ども達につけ、物事を投げ出さずに向き合う若者が社会を支える世の中を創ります。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で求める人物像 現状に満足せず自己の成長を常に意識している人 やって見せ、背中で教えてゆける人 より良い保育を目指して創意工夫していける人 ・社会人としての質向上 忙しさや大変さを表情や口調に出さず、いつでも笑顔で心がける。お願いします、ありがとうございます、など仕事中の言葉遣いに注意し、正しい日本語を身に付ける。子ども全体を見て自分が今、何をすれば良いのかを判断して、自ら行動したり、提案する。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士としての質向上 子どもの命を預かる重みを自覚し、守らなければいけないことを遵守し、常に平常心で子どもと接する。後輩には自分の知識を教え、育てる気持ちを持ち、一人ひとりがリーダーになるという気持ちで責任を持って保育を行う。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	理念「にんげん力。育てます。」を具体化した「私たちが育てる6つの力」の獲得に向けて、多彩な活動を行っています
	内容	理念「にんげん力。育てます。」を具体化した「私たちが育てる6つの力」を身につけるために、異年齢保育を基本とし0～2歳児の発達に沿った多彩な活動を行っています。子どもたちは「ケガをしない強い体を育てる」につながる活動として、毎朝のリズム体操や朝夕の散歩などで足腰を丈夫にし、「全ての人との関わりから判断・行動を身につける」では商店街ツアーで職場見学をして、働く人々と交流しています。園では日ごろから全職員で話し合い、「今、なぜそれをするのか」の理解を深め、すべての活動に意味を持たせられるように取り組んでいます。
2	タイトル	畑仕事で種から野菜を育て、食事は意欲をもって自分の力で口に運ぶなど、食育を通して生きる力をはぐくんでいます
	内容	食事の時間は職員は見守る姿勢を基本として必要以上に手を貸さず、子どもたちは自分の力で食事を口に運んでいます。手づかみ食べを積極的に行い、興味に応じて食具の扱い方を覚え、やがて配膳も自分で行うようになります。2歳児になると週2回の畑活動が始まります。野菜の種を購入し畑に種をまき、世話をしながら生長を観察し、収穫した野菜は食事として提供され、生産から消費までのサイクルを身をもって理解していきます。今では自ら気づいて草とりや間引きなども行っています。このような食育活動を通して、自ら食べる力の基礎を培っています。
3	タイトル	認証保育所の特性を考慮しながら転園の際のサポートなど、入園から退園までいねいな保護者対応を心がけています
	内容	認証保育所の中でも0歳児から2歳児までを預かる園には、転園を前提とした保育環境が求められます。当園では近隣の保育園及び幼稚園に関する情報を提供するなど、転園に向けたサポートに取り組んでいます。そのほか多忙な保護者の都合に合わせて適宜行われる個人面談やアプリを中心とした連絡網など、地域性や保護者の状況に合わせた対応を行っています。また、保護者懇談会は保護者からの要望や意見などを聞く場となっているとともに、送迎時に少しでも気になることがあった場合は保育士に伝えてもらい、アドバイスを行う体制も整えられています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	リスクに対する備えは行われていますが、地域特性を考慮した地震対策、津波対策など、園独自の危機管理及び訓練の実施などが望まれます
	内容	どろんこ会グループが作成した「クライシスマニュアル」を基に綿密なリスク対策が行われていると同時に、野外活動時に人数確認リーダーが見失い・置き去り事故の防止を図るなど、保育現場でのリスクも想定した対策が講じられています。しかし、園が位置する沿岸地区は地震発生時にひととき大きな揺れが想定され、行政からは津波に対する対策も求められているなど、園独自のリスク対策が必要とされています。ハザードマップの再確認を行うと同時に安全と思われる地区への避難経路、可能な限りの高層階への避難経路などを特定した訓練が求められます。
2	タイトル	綿密なネットワークを構築し地域における子育ての質の向上に貢献するとともに、保育の拠点としての役割を果たすことが期待されます
	内容	園では商店街ツアーなどを通して地域とのつながりをはぐくんでおり、担当マネージャーとの協働により行政関連などからの情報収集などが行われています。認証保育所であっても、地域における子育てに責任ある立場には変わりはなく、また災害時における対策も当地区ならではの計画性が求められます。地域の関係機関とのつながりから得られるさまざまな面での情報が、ひいては園の安全対策につながるため、園長会などを介した他園とのつながりを持つなど今後の取り組みに期待します。
3	タイトル	保護者からの電話の問い合わせに職員のだれもが同じように対応できるよう、さらなる取り組みが期待されます
	内容	毎年保護者からは入園前の電話での問い合わせが多く、ポイントを絞ったスムーズな説明が求められています。現在は主に施設長が対応していますが、どの職員も同じように対応できるように、園会議で定期的に研修を行い対応の標準化を図っています。特に保育内容は職員が自分の言葉で説明できるよう努めています。施設長はそのほかにも、保護者に伝わりにくい次月の予約システムの説明を職員全員が確実に行うことを目指しており、今後のさらなる取り組みが期待されます。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-3-2	全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している
タイトル①	「育ちの瞬間」を捉えたポートフォリオを通して、保護者に保育内容を説明しています	
内容①	<p>「ケガをしない強い体を育てる」をはじめとした園が育てていきたい「6つの力」や日々の保育のねらいに沿った活動内容を、ポートフォリオを通して保護者に報告しています。0歳児がさつま芋に興味を持って触れた瞬間、2歳児の遊び方を0、1歳児がじっと観察して同じように遊び出したその瞬間など、子どもたちの「育ちの瞬間」を職員は見逃さず写真に収めています。ポートフォリオはそれらの写真に実況コメントを添えて、玄関に掲示しています。降園時には、職員が説明して保護者や子どもとの会話も弾み、保育活動の共通理解につながっています。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
タイトル②	子どもの情報を全職員が把握し、子どもを中心に据えた保育について話し合っています	
内容②	<p>全職員が全ての子どもを把握していることを前提として保育を行っています。子ども一人ひとりの情報は、保護者との会話、連絡帳、出欠伝達簿、朝会、昼礼、園会議、園内研修、システム上でのデータ閲覧など、さまざまな媒体や機会を通して共有し、その時々の子どもの状況に即した計画がどうあるべきかを話し合っています。こうした場に限らず、職員は日ごろの関連なコミュニケーションや園全体の雰囲気の良いさを当園の強みと認識しており、「ワンチーム」の意識を持って、子どもを中心に据えた保育の向上に日々取り組んでいます。</p>	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	子どもたちの様子を写真と説明文を添えて保護者に毎日配信し、好評を得ています	
内容③	<p>保育アプリを活用し日々の子どもの様子を保護者に配信しています。0、1、2歳児の各担当職員が、それぞれ1日1枚の写真を撮り、説明文とともに配信します。その際、活動紹介に終始するのではなく、活動の目的も記載します。例えば、朝のリズム体操では「体をしなやかに動かして転倒時に手をつけるように」、雑巾がけでは「足腰を強くするために」など、その活動を通して子どもに身につけたい力は何かを伝えるようにします。保護者からは、様子がよくわかり安心すると好評で、園の取り組みへの理解と、職員との信頼関係の構築につながっています。</p>	

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目	
カテゴリー1		
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	あり	◆1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	あり	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	あり	◆1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている
	あり	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している
	評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している	
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
あり	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	
あり	◆2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
あり	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	
カテゴリー1の講評		
公表コメント	本部及び園が目ざすべき方向性は職員に浸透が図られ、保護者へも提示されています	
	本部は理念及び保育方針などを明確に示しており、目ざすべき方向性はさまざまな手段を通して職員への浸透が図られています。年1回の本部全体研修では代表自らが理念や方針を示すと同時に、園会議でも勉強会を行うなど理念に沿った保育の実現に向けた学びを深めています。新卒職員はOJT研修を行う過程で理念、方針などの周知が図られています。園の玄関に理念などを掲示するとともに入園のしおり、重要事項説明書にも明記されており、年2回行われる保護者懇談会及び保護者も参加する運営委員会においても保育方針などの共有が図られています。	
	施設長はどろんこ会グループの方針を基に事業計画書を作成し、推進にあたっています	
	施設長は運営本部が示す「運営本部ミッション」を基に、園が目ざす方向を見据えながら具体的な施策に落とし込み、自らの責任で事業計画書を作成しています。事業計画は次年度の行事などを話し合う園の策定会議などにおいて周知が図られているとともに、施設長は各職員が計画に基づく方向性を見失わないように適宜サポートを行っています。また、施設長はリーダー層と位置付ける職員には役割を自覚するように促すとともに、新卒職員には保育の基本をていねいに伝えるなど、経営層としての自覚をもってリーダーシップを発揮しています。	
非公表コメント	重要事項に関する意思決定及び通知への流れは明確になっており、周知も図られています	
	園の運営などにかかわる重要案件は、現場の声も吸い上げながら経営会議、取締役会で決定され、しかるべき役職、本部マネージャーを通して園に通知されています。決定事項は園会議または昼礼などの場で職員に伝えられています。決定に至ったプロセスなどは決定事項とあわせて会議議事録に記録し、パートを含む全職員に回覧または口頭で伝達されています。保護者には随時「おたより」を配付するとともにアプリを通して配信し、理解を求めています。また、お迎え時などにも改めて口頭で伝えるなど周知の徹底が図られています。	
カテゴリー1の講評補足		

2		カテゴリ-2	
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行			
サブカテゴリ-1(2-1)			
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6	
評価項目1 事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		評点(000000)	
評価	標準項目		
あり	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している		
あり	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している		
あり	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している		
あり	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している		
あり	5. 事業所の経営状況を把握・検討している		
あり	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している		
サブカテゴリ-2(2-2)			
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している		評点(000)	
評価	標準項目		
あり	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している		
あり	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している		
あり	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている		
評価項目2 着実な計画の実行に取り組んでいる		評点(00)	
評価	標準項目		
あり	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している		
あり	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		

	<p>カテゴリー2の講評</p>
公表コメント	<p>アンケート及び個人面談などを通して利用者、職員のニーズや意向を把握しています</p> <p>利用者アンケートは子どもや保護者が園に慣れ始め、職員も子どもたちへの理解が深まる9月ごろに行われています。多忙な保護者に負担をかけないために入園後の面談は要望があった時に適宜行われています。保護者代表及び施設長、本部関係者などが会して行われている運営委員会は要望などを聞き取る場となっています。職員の意向や要望は施設長に伝わる関係性が構築されています。施設長と本部マネージャーとのチーム対応によって、地域全体の課題及びニーズ解決に向けたリーダーシップを旨としています。</p>
	<p>どろんこ会グループが目ざす長期計画を基に、園は3年間の中期計画を策定しています</p> <p>本部は時代の流れを予測しながら長期にわたる構想のもとに保育事業を展開しています。園はその大きな目標を見据えながら運営本部ミッションに沿って向こう3年間の中期計画を策定しており、それをベースに単年度の年間指導計画などに落とし込まれています。予算計画は基本的に本部が策定していますが、施設長が職員のスキルアップに資すると判断した外部研修の受講など、園が必要とされる予算を法人本部に上程できるシステムが用意されています。</p>
	<p>事業計画に基づいて職員の目標が設定され個人面談を通して振り返りが行われています</p> <p>施設長は、年度における基本方針を具体的に提示される「運営本部ミッション」を基に定めて事業計画を策定し、「園目標」を設定しています。組織目標の達成に向けて個人目標が策定されていますが、担当するクラスごとに成果も問われていることから、職員個々人の頑張りとともにお互いにかかわりながらチームとして目標達成に向けた取り組みが求められています。個人目標は1か月程度の短期的な目標設定とともに、年度中間など施設長による定期的な個人面談を重ねながら年間目標の達成につなげています。</p>
非公表コメント	<p>カテゴリー2の講評補足</p>

3		カテゴリ-3	
経営における社会的責任			
サブカテゴリ-1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	◆1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる		
あり	◆2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している		
サブカテゴリ-2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
あり	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
あり	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		
サブカテゴリ-3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		
あり	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの見学・実習の受け入れ体制を整備している		
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		
あり	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		
あり	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		

	カテゴリー3の講評
公表コメント	<p>定期的に入権に関する振り返りを行うなど、法及び規範に対する高い意識が見られます</p> <p>保育士として順守すべき法や規範などどろんこ会グループが目ざす保育のあり方を示した冊子「保育品質マニュアル」がすべての職員に配付され、常に携行することが求められています。年2回、職員が「児童・保護者の人権に関するチェックリスト」を基に自らの人権に対する対応を振り返り、園会議の場において話し合いが行われています。本部にコンプライアンス統括室を設置して人権に関する問題をチェックし、内部監査において定期的に園の取り組みをチェックするなど、法令順守に対する高い意識が見られます。</p>
	<p>保護者からの苦情を受け付ける体制及び虐待に対する防止策が整えられています</p> <p>苦情の受付体制は入園時に説明されるとともに書面が玄関に掲示されており、保護者が閲覧できるようになっています。苦情及び意見や要望、提案などは基本的には施設長が受け入れています。本部に直接寄せられた苦情などは、「ご意見・ご提案シート」に記録され職員と共有されています。虐待防止マニュアルが整備されているとともに年2回行われる人権チェックで子どもへの対応に関する振り返りが行われています。保護者などによる虐待が疑われる場合は、本部と連携したうえで関係機関に連絡し対応することになっています。</p>
	<p>青空保育及び子育てに関する講座を通して地域の保育ニーズを把握し貢献しています</p> <p>どろんこ会グループ及び園に関する情報は、園の見学時とともにホームページを通して公開されています。中学生・高校生の職場体験などのボランティア及び実習生の受け入れに対しても積極的です。園では月1回、未就園児の親子の参加も可能な青空保育、及び地域に広く開放されている子育てスキル講座を開催し、地域における福祉ニーズに応えています。若手保育士の育成を目的とした職員交流及び勉強会、園児の異年齢交流なども積極的に行われていますが、あくまで近隣の系列園に限られており、より幅広い交流に向けた園独自の活動が期待されます。</p>
非公表コメント	カテゴリー3の講評補足

4		カテゴリ4	
リスクマネジメント		サブカテゴリ1(4-1)	
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)	
評価	標準項目		
あり	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		
あり	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		
あり	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		
あり	◆4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解し対応できるように取り組んでいる		
あり	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		
		サブカテゴリ2(4-2)	
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)	
評価	標準項目		
あり	◆1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている		
あり	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・管理している		
あり	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている		
あり	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している		
カテゴリ4の講評			
公表コメント	リスクに応じて訓練が行われていますが、大震災を想定した対策の見直しが望まれます 園では何よりも子どもの命にかかわるリスクを想定して、震災、水害及び不審者侵入を高い優先順位に据えて備えを行っています。また、園外活動時における見失い・置き去り事故の防止には人数確認リーダーを定めてダブルチェックの徹底を図っています。しかし、沿岸という園が位置する地域の特性を考慮したとき、津波を想定した避難経路などの策定及び保護者との危機の共有策、行政によるハザードマップの再確認など、さらに緊張感を持った対策を講じるとともに、震災に特化したマニュアルによるシミュレーションと訓練が強く望まれます。		
	クライシスマニュアル及び対策本部の立ち上げによる迅速な対応策が作成されています 避難訓練計画及び危機管理マニュアル、ハザードマップ、引き渡し訓練などの詳細を明記した「クライシスマニュアル」を作成し、想定されるリスクに備えています。緊急事態が発生した場合は本部内において速やかに「緊急対策室」が立ち上げられ、事業継続に向けた対策が行われる体制になっています。また「事故発生時対応フローチャート」が作成されており、通院対応を要したけがなどの事故に関しては事故記録簿に記録し、本部と共有する体制がとられています。事故記録簿は押印が義務づけられ、全職員と共有されています。		
	情報セキュリティチェックを行うなど、高い意識をもって情報管理が行われています 保育料及び会計データ、入園児情報など機密性の高い情報は管理するパソコンが限定されており、管理者にアクセス権限が設けられています。また、個人情報に関する書類などは鍵付きの書庫で保管し、鍵は施設長が管理しています。全職員に貸与されている園携帯には各自のパスワードが設定されており、ポートフォリオのために園児などを写した携帯内の写真は、1週間以内に削除することが義務付けられています。年2回「情報セキュリティチェック」を行うとともに、コピーをする際に裏書の使用を禁止するなど、情報管理に対する意識向上を図っています。		
非公表コメント	カテゴリ4の講評補足		

5		カテゴリ5	
職員と組織の能力向上			
サブカテゴリ1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12	
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			
評価		標準項目	
あり	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		
あり	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			
評価		標準項目	
あり	◆1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		
あり	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			
評価		標準項目	
あり	◆1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		
あり	◆2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		
あり	◆3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		
あり	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			
評価		標準項目	
あり	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		
あり	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		
あり	◆3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		
あり	◆4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		
サブカテゴリ2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3	
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			
評価		標準項目	
あり	◆1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		
あり	◆2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		
あり	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		

	<p>カテゴリ5の講評</p> <p>意向調査などを通して職員の状況が把握されており、キャリアパスも明確になっています</p> <p>新卒採用は本部の採用部が一括して行っており、「友達紹介制度」を試験的に行うなど中途採用にも積極的に取り組んでいます。さらに、現在最も力を入れているのが離職防止です。施設長による面談及び本部マネージャーによる巡回を通して現場の声を聞く環境を作ると同時に、次年度に向けた「意向調査」を実施して職員の意向や状況を踏まえた異動及び配属が行われています。育成計画は施設長による事業計画書に明記されており、どろんこ会グループの人事考課制度によってキャリアパスと連動した各等級ごとの職務、職責も明確になっています。</p> <p>保育の質を高めるための取り組みが行われており個人の育成計画につなげています</p> <p>保育の質を高める試みが活発です。毎月施設長を中心に「保育の質を上げる会議」と称するスキルアップ研修が行われ、テーマごとに職員が参加する学びの機会となっています。外部にも公開されている「子育てスキル講座」への参加も奨励されています。外部研修、系列他園における新卒職員を対象としたOJT研修などもスキルアップを図る場となっています。事業計画に基づいて組織目標及び個人目標が設定されており、月1回が努力目標となっている個人面談及び中間面談時における振り返りを経て目標の進捗状況が評価され、育成へとつなげています。</p> <p>意見や提案がしやすい風通しの良い職場環境がチームワークの良さにつながっています</p> <p>月1回の園会議が研修で学んだことを共有する場であり、職員が活発に発言する機会となっているなど、施設長は風通しの良い関係性を築くことを目指しています。職員からリーダー層、そして施設長へとつながる関係性を明確にすることで職員の声が園運営に生かされやすくなっており、チームワークを高める一因ともなっています。園では希望する休みを反映する仕組みや休憩時間を1時間確保するなど、シフトづくりにあたって細やかな配慮を行うとともに、ねぎらいや期待していることを直接伝えることで、モチベーションの向上につながっています。</p>
公表コメント	<p>カテゴリ5の講評補足</p>
非公表コメント	

	カテゴリ7	
7	事業所の重要課題に対する組織的な活動	
	サブカテゴリ1(7-1)	
	事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
	評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
	前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
	<p>施設長が目標としたのは「職員自らが主体性及び自主性をもって保育実践に取り組む」ことでした。つまり、若いチームに求めたのは保育士への原点回帰です。職員一人ひとりが当たり前のことを当たり前にやり、自ら考えて行動する。園会議で決めたことは責任をもって実行する。そして、現状に満足することなく疑問をもって最善を考えながら自分で考え、行動できる保育士を目標としてほしい。背景にあったのは何事にも「受け身」に感じた職員の姿であり、園会議などで話し合っただけで決めたことを継続して実行できないという現状でした。施設長が取り組んだのは正職員が全員参加する園会議内での研修です。どろんこ会グループで推進している日課及び日々の保育のあり方などテーマはさまざまですが、保育士として当たり前のことをマニュアルを基に見直しを行いました。年度後半には施設長が話し、職員が聞くといった一方通行ではなく、職員が主体となってテーマを決め、資料を用意し、進行まで行うという職員主体の研修に進化していました。園会議も報告を聞く会議から意見を出し合い、話し合える場へ、大きく雰囲気が変わりました。今後もさらに主体性及び自主性を伸ばす環境づくりに取り組んでいく予定です。</p>	
	目標の設定と取り組み	具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
	取り組みの検証	目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
	検証結果の反映	次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
	評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評	
	<p>職員における責任感や当事者意識の希薄さに危機感を感じた施設長が取り組んだのは、月1回の園会議で毎回30分行った研修による意識改革でした。職員一人ひとりが主体性を持って行動し、自らの意見を発信する積極性を職員に求めることで、活気ある園への進化を目指しました。その結果、日課などに対する意欲が高まり、意識的に活動に取り入れる姿が多く見られるとともに、まだ職員間で差が見られるものの会議での発言も活発になり、職員間で意見を交わす場面も多くなりました。しかし、マニュアルを守り、会議で決めたことを実行するという意識は高まったとはいえ、いまだ職員間での意識の差が大きいと感じ取っていた施設長は、毎日の散歩に同行したり保育の現場に入ることによって職員一人ひとりの意識を確認したりして、半年ごとの面談を通じて意識の統一を図りました。今後も日課などの必要性を園全体で考え、子どもたちの成長に寄与するにはどうしていけばいいかを、原点に立ち返って深めていくことを目指すと同時に、結果のみを求めるのではなく課題解決に向けた取り組みや学びに対する姿勢など、目標達成に至るプロセスを大切にしながら職員の意識向上を図っています。</p>	
非公表コメント	カテゴリ7評価項目1の講評補足	

<p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p>	
<p>保育の現場は「日々新しい」と言っても過言ではありません。予測しなかつことが起こり、その動きに対応するために求められるのが、ベースとなる確たる規律でありルールへの順守でしょう。施設長は「計画性を持った保育の実践」を目標に掲げて、規律ある園運営を目指しました。保育目標に基づいた年間指導計画から月案・週案・日案に落とし込み、職員全員が同じ目標に向かって保育現場に立つ。日々の書類提出期限など決められたルールはしっかりと守り、施設長と職員、職員同士の信頼感を築く。背景にあったのは主に書類提出に関する職員のルーズな対応でした。行事の計画書などの提出期日が守れない。施設長が声をかけないと提出されない。これらを施設長は園全体の計画性に対する意識の欠如と捉え、やがては園運営に重大な影響を及ぼしかねないとの危機感を持ちました。まず取り組んだのは、各月の書類の提出日や担当を明記したチェック表を作成して週ごと、月ごとに職員全員が確認するとともに、提出日間近には施設長が進捗状況を確認しました。その結果、書類の作成期限や自らの責任をしっかりと果たすという意識が芽生えていると感じています。</p>	
<p>目標の設定と 取り組み</p>	<p>具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p>
<p>取り組みの検証</p>	<p>目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p>
<p>検証結果の反映</p>	<p>次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p>
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p>	
<p>決められた書類提出期限が守られないという一見小さなことに思える職員の意識が、やがては子どもの命にかかわることを最優先とする本部の目指す保育にまで影響を及ぼすことに危機感を感じた施設長は、チェック表の作成など計画性を育てるための取り組みを始めました。その結果、一定の成果はあったものの、締切日間近での作成や声をかけて初めて作成に取りかかる職員が見られるなど、内容を深める段階にはないことを認識し、改めてチェック表の見直しを行い、内容の確認も徹底しました。また、本部による内部監査において書類作成に関する指摘がなかったかを確認し、園としてのあり方を改めて検討するきっかけとなりました。依然として個人差はありますが、意識は高まりつつあります。施設長はさらに、保育現場での気づきをまとめた「エピソード記録」などを用いた対話的な園内研修を実施する中で、職員間で計画性を持った保育の重要性を共有することを目指しています。日々新しい保育だからこそ計画性を持った保育実践と、ルールを守る意識の醸成は欠かせませんが、書類提出のあり方から職員の意識を変えようとする施設長の取り組みは、着実に保育の質の向上につながっているといえるでしょう。</p>	
<p>カテゴリー7評価項目2の講評補足</p>	
<p>非公表 コメント</p>	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している	評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	あり	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	あり	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている
	あり	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	あり	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	あり	5. 事業所のサービス利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている
	サブカテゴリ1の講評	
	どろんこ会グループのホームページやパンフレットなどから園の情報が入手できます	
	園の情報は、どろんこ会グループのホームページやパンフレット、園が発行する子育て支援情報誌「ちきんえっぐだより」、区のホームページなどを通して利用希望者が入手できるようになっています。例えばホームページでは、「子育てから世界は変わる。」のメッセージとともに、座禅や雑巾がけ、泥んこ活動、食事の配膳などを行う子どもたちの動画を見ることができ、保育の特徴が一目で伝わる内容になっています。当園の情報は「施設一覧」から検索でき、住所、定員、月額利用料などの基本情報のほか、最新の空き情報もわかるようになっています。	
	園見学は個々の事情に応じて受け入れ、理念実現に向けた保育内容を説明しています	
	園見学を随時受け入れています。電話または園のホームページで受け付け、施設長をはじめ各職員が対応にあたっています。感染症対策として1回につき2家庭までの受け入れとし、日時はできるだけ希望に沿えるよう調整しています。見学の時間帯は午前中を勧め、散歩への同行も可能としています。見学当日はパンフレットを基に概要を説明し、保育室の様子を見てもらいます。夕方や土曜日などふだんの保育活動が見学できない場合には、子どもの日常や食育活動などを記録したポートフォリオから、入園後の生活をイメージしてもらえるようにしています。	
	当園の定員を満了した場合には、待機申請手続きや区の窓口の案内をしています	
	当園は認証保育所であるため、利用者との直接契約となります。定員を満了した後であっても当園への入園を希望する家庭には、年度途中で案内できる可能性のあることを説明し、待機申請書を提出してもらいます。あわせて空きが生じるまで一時保育の利用を案内しています。今年度11月時点で一時保育の利用者は20名を超え、ニーズの高さがうかがえます。そのほか、区の窓口を案内し、周辺施設の空き情報などがそこで得られることを説明しています。	
	サブカテゴリ1の講評補足	
非公表コメント	見学者対応について、どの職員も同じように概要説明ができ、職員自身の言葉で当園の良さをアピールできるようになることを施設長は目指しています。見学者に伝えるべき情報を整理し、園会議や研修の場を活用して繰り返しシミュレーションを行うことで、見学者対応におけるいっそうのサービス向上が期待できるでしょう。	

サブカテゴリー2	
2	サービスの開始・終了時の対応 サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している
あり	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている
あり	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
あり	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している
あり	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている
サブカテゴリー2の講評	
重要事項説明書の読み合わせを行い、説明したうえで契約を結んでいます 当園への入園を希望する家庭には、園ホームページの登録専用フォームへの登録を依頼し、後日入所前面談を行います。保護者が登録する際には、職員も園で同じ画面を見ながら補足説明し、次月の登園予約方法や個人情報利用に関する説明をした後に同意のサインをフォーム上で得ています。入所前面談は施設長と行い、重要事項説明書及び契約書の読み合わせと説明をしたうえで契約を締結しています。離乳食やアレルギーに関する相談は栄養士が対応しています。入園者情報は、園会議で施設長から全職員に共有しています。	
慣れ保育は保護者の意向と子どもの状況に合わせて進めています 入園日よりフルタイムでの保育に対応するとともに、希望者には慣れ保育も行っています。慣れ保育では保護者の意向と子どもの様子を勘案し、徐々に保育時間を延ばしています。愛玩物のタオルやぬいぐるみは持ち込み可とし、子どもはお気に入りを手にして、安心して過ごしています。また1、2歳児で入園する場合は、保護者が子どもと離れられない様子が見られるため、保護者には笑顔で子どもを送り出せるようアドバイスしています。進級した在園児には慣れ保育の子どもが降園した午後に、職員がたっぷりスキンシップをとって愛情を注いでいます。	
進級に伴う転園の際には子どもたちを明るく送り出し、その後の支援にも努めています 2歳児クラスから3歳児クラスへ進級するにあたり、子どもたちは当園を退園し、別の保育所や幼稚園へ転園していきます。退園に向けて入園以来の生活の写真や製作物をまとめたアルバムを作成し、退園時に渡しています。職員は、「いつでも遊びに来てください」と明るく送り出しています。退園後も日課の散歩の道すがらに保護者と出会うことがあり、職員から園行事の開催日や子育てサロン、土曜日に開放している子育て施設情報などを伝えています。園行事には退園した子どもが保護者と訪れ元気な姿を見せるなど、かかわりが続いています。	
サブカテゴリー2の講評補足	
公表コメント	
非公表コメント	

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
あり	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
あり	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている

評価項目2
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している
あり	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況(保護者の意向を含む)の変化に即して、作成、見直しをしている
あり	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている
あり	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している
あり	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている

評価項目3
子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある
あり	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している
あり	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している

	サブカテゴリ-3の講評
公表コメント	子どもの状況は目的別の様式に記録して、全職員で把握し課題を明確にしています 入園後の子どもの情報は、個別記録、個人台帳、生活記録、成長記録などに記録しています。個別記録には発達の過程や園での様子、個人台帳には予防接種情報、生活記録には食事・排泄・午睡時間、成長記録には身長・体重を記録しています。これらの情報は、全職員が目を通し、子ども一人ひとりの課題を明確にして、その後の支援について話し合っています。保護者においては、日々の会話をはじめ毎年9月に実施する利用者アンケート、「ご意見ご提案シート」などを通して、個別のニーズや対応すべき課題を把握しています。
	全体的な計画を踏まえた年間指導計画を作成し、月・週・日案へとつなげています 全体的な計画を踏まえた年間指導計画を基にして、月・週・日案へとねらいに沿った連続性のある計画や、個々の発達に沿った個別計画を作成しています。子どもの姿は保育日誌や成長を捉えた写真とともに「エピソード記録」に記録し、これらも参考に各計画を省察し、次の計画策定に生かしています。今年度は0歳児クラスに高月齢の子どもが多かったため、6月から異年齢交流を計画して1、2歳児と散歩に行くなど、その時々の子どもの実態に沿うよう考慮しています。なお、全体的な計画は保護者にも配信し、懇談会を通して計画の説明をしています。
	出欠伝達簿の活用や毎日の朝会・昼礼を通して子どもや保護者の状況を引き継いでいます 日々の子どもや保護者の状況は、保護者との会話や連絡帳などで把握し、各職員が特記事項を「出欠伝達簿」に記入し、全職員が目を通すことで、早番職員から翌朝の早番職員まで情報が引き継がれる仕組みとなっています。そのほか随時気づいたことは、毎日の朝会や昼礼で共有しています。全ての職員が全ての子どもを把握していることを前提とし、朝会にてその日の計画が共有され、子ども一人ひとりにとって、より適切な保育となるよう努めています。なお、年度替わりに伴う職員間の引き継ぎは、毎年3月に行われる策定会議で行っています。
	サブカテゴリ-3の講評補足
非公表コメント	

サブカテゴリ-5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している 評点(〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている
あり	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している
あり	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている
あり	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている
サブカテゴリ-5の講評	
園ブログの更新のつど写真の掲載可否を確認するなど個人情報保護を徹底しています どんご会グループのホームページにプライバシーポリシーを掲載し、個人情報の適正な利用・管理、及び正確性・機密性の保持に努めていくことを表明しています。園においても保護者に対し、契約前に個人情報保護利用の説明を行い同意を得ているほか、毎月更新する園ブログへの写真掲載の可否について、そのつど確認し承諾書を得ています。保育中に病院受診が必要な場合には、保護者の就労が中断しないように、大きなけがを除き職場への受診の事前連絡を控えています。受診の同席希望などには、個別ニーズにも応えています。	
公表コメント	人権チェックの結果を日常保育に生かし、個々の気持ちを尊重した保育を行っています 毎年4月と10月の年2回、全職員を対象に本部による人権チェックを実施しています。チェック項目は保育内容、環境、保護者支援など多岐にわたっています。集計は施設長が行い、チェックがつかなかった項目を分析し、園会議で注意喚起しています。職員はこれらを日常保育に生かし、例えば食事の際の言葉かけを「食べてみたらどう?」と応答的なやり取りに改善するほか、散歩に出かける際に、つい子どもを抱っこしてしまう習慣を見直し自分の意思で歩けるかを聞いてみるなど、個々の気持ちに寄り添った対応を心がけています。
	虐待の早期発見に努め、発見した場合の対応フローも全職員で認識しています 人権チェック実施後の振り返りでは、虐待の項目についても施設長は特に注意を促しています。職員は登園時の子どもの様子を観察し、着替えやおむつ替えの際に不審な傷やあざがないかを確認しています。発見した場合には写真を撮り、虐待対応マニュアルに沿って本部とともに対応にあたることになっています。当園では全職員で、「子どもの名前を呼び捨てにしない、無理強いしない、差別しない」ことへの共通理解を得ていますが、昨今の虐待事件の多さから、施設長は社内外の研修参加を通して理解をより深めていきたいと考えています。
非公表コメント	サブカテゴリ-5の講評補足 保育室中央のトイレの壁の上部が透明で、多くのおとなの視線にさらされる環境にあります。安全対策の一環であるという意図もあるかもしれませんが、子どもの羞恥心に配慮して、目隠しをするなどの工夫を望みます。

サブカテゴリー6	
6	事業所業務の標準化
サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている 評点(〇〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
あり	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている
あり	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている 評点(〇〇)	
評価	標準項目
あり	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている
あり	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている
サブカテゴリー6の講評	
公表コメント	保育運営マニュアルと保育品質マニュアルにて手順を定め、見直す仕組みもあります どんご会グループが作成したマニュアルに基づいて園運営がなされています。園対応の拠り所となる「保育運営マニュアル」には衛生管理、感染症、危機管理、虐待対応、苦情対応、給食提供などの対応フローが定められています。保育の手引きとして入職時に配付される「保育品質マニュアル」は毎年4月に改定され前年度版と引き換えに最新版を配付しています。これらのマニュアルの改定にあたっては、職員からの改善提案を施設長を通して上程される仕組みがあり、現場の声も吸い上げながら当園のみならず系列園全体の保育品質の向上をめざしています。
	内部監査室による内部監査と園内での話し合いにより、業務水準の向上に努めています マニュアルにのっとった保育サービスが提供されているかを点検するために、内部監査室による年2回の内部監査を実施しています。法人本部から派遣された監査員1名が点検項目に沿って確認していきます。当園ではおむつ替えの手順について指摘を受け、改めてロールプレイングをして共通理解を図り、手順を掲示するよう改善しました。また、園の職員からは、早番職員の業務チェックリストについて、室内に新たに設置した鉄棒の安全点検を毎朝すべきとの提案があり、速やかにチェックリストに加えるなど日々の気づきを改善に生かしています。
非公表コメント	サブカテゴリー6の講評補足

Ⅲ サービスの実施(カテゴリ6-4)

		サブカテゴリ4	
サービスの実施		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 35/36	
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(○○○○○●)	
	評価	標準項目	
	あり	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	
	あり	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	
	あり	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	
	あり	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	
	なし	6. 【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携を図っている	
評価項目1の講評			
公表コメント	<p>子ども一人ひとりの成長、発達を把握し、その子どもに合った保育を行っています</p> <p>日々の保育や保護者とのやり取りの中で子どもの姿を把握するほか、発達の過程や園での様子を記録した「個別記録」、成長した姿を写真で捉えた「エピソード記録」などを振り返ることで、個々の全体的な姿を把握しています。そのうえで個別計画を見直す際にはクラスを越えて話し合い、例えば年下とのトラブルが見られる子どもは年上のクラスに入れて様子を見る、2歳児で甘えたい姿が見られるため年下のクラスでゆったりとかかわりスキップを十分にとるなど配慮し、その子どもなりのペースで育っていけるよう支援しています。</p>		
	<p>机上遊びや全身運動のできる遊びなどを自分の興味に応じて選べる環境となっています</p> <p>ワンフロアをパーティションで仕切り、静と動の遊びができるよう工夫しています。机上遊びをしたい子どもには、すぐ隣の低い棚におもちゃを収納し、手に取りやすいようにしています。パーティションには指先を使ってひもを引っ張る仕掛けもあります。子ども用の跳び箱と鉄棒を常設し、0歳児は跳び箱の上り下り、2歳児は鉄棒にぶら下がって遊びます。異年齢保育を基本としているため、子どもたちは室内を自由に行き来して好きな遊びをしています。職員は全体を見渡せる場所で、それぞれが遊びに集中できるよう、また危険のないよう見守っています。</p>		
	<p>近隣小学校との交流の実現に向けて、取り組みを検討しています</p> <p>当園は地域ニーズに応え3～5歳児に2名の定員を設けているものの現在受け入れはなく、0～2歳児のみを受け入れています。ただ施設長はじめ職員は、子どもたちの発達を見通した場合に、まず職員が小学生の姿を知っておく必要があるとの思いから、近隣小学校との交流の機会が持てるよう取り組みを検討しています。現状、実現には至っていませんが、この先もコミュニケーションを図るべく計画していく考えです。なお、5歳児を受け入れた際には、小学校との連携・接続に係る計画書を作成し、子ども間のみならず職員間の交流も実施する予定です。</p>		
	<p style="text-align: center;">評価項目1の講評補足</p>		
非公表コメント			

2	評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに 配慮した保育を行っている	評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	あり	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	
	あり	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	
	あり	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	
	あり	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	
評価項目2の講評			
公表 コメント	登園時には子どもの健康観察を行い、家庭での様子を保護者に聞いています		
	登園時には子どもと挨拶を交わしながら機嫌や顔色などを観察し、保護者から家庭での様子や健康状態などを確認しています。特に0歳児の家庭には、飲んできたミルクの量や睡眠時間が午前活動に影響するためいねいに聞いています。朝は連絡帳アプリも確認しますが、登園後に送られてくることもあるため、対面での聞き取りに注力しています。大切な内容は出欠伝達簿に記入し、朝会で読み上げ全職員に共有しています。なお、体調のすぐれない子どもには、戸外活動を控えて体を休め、早めの降園にするなどの配慮をしています。		
	着替えやトイレなどの生活習慣は、習得に向け子どもの意欲を尊重して進めています		
	子どもの意欲を尊重して基本的な生活習慣を身につけられるようにしています。0歳児には、手を洗う職員や1、2歳児を見て自ら水道に向かおうとする姿が見られてきますので、職員は清潔にする気持ち良さに共感し、できるところまでは自分でするよう見守り、意欲をさらに引き出しています。1歳児は、着替えを自分でしたくなったタイミングでズボンをはくところから始めています。2歳児は、家庭と連携してトイレトレーニングを行います。特に2歳児は転園を控えているため、情緒面への配慮の必要性についても保護者に伝えるようにしています。		
	降園時には口頭やポートフォリオでその日の活動を中心に保護者に伝えています		
	降園時にはお迎え3分間対応に取り組み、散歩や室内遊び、食事、睡眠などその日の過ごし方や家庭での様子、最近の出来事やポートフォリオなどを話題にしています。降園時間が重なる場合には要点を絞った対応を心がけ、1日の活動で特に伝えたいことを話し、あわせて家庭での様子も聞いています。連絡帳アプリには、主に活動の様子を記載して保護者に返信しています。園ではこうした保護者とのコミュニケーションの積み重ねが、子どもへのより安心な保育の提供につながっていると考えており、日々ていねいな対応を心がけています。		
非 公表 コメント	評価項目2の講評補足		

3	評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	
	あり	2. 子どもが人と関わる力を養えるよう援助している	
	あり	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	
	あり	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	
	あり	5. 子どもの心身の発達が促されるよう、戸外・園外活動(外気浴を含む)を実施している	
	あり	6. 生活や遊びを通して、子どもが自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	
評価項目3の講評			
公表 コメント	リズム体操や製作活動などを通して、全身を使って表現活動を楽しんでいます		
	朝のリズム体操を日課として表現遊びを楽しむとともに、体をしなやかに動かし、けがをしにくい体作りにつなげています。訪問調査日はかえるに変身した子どもたちが走って跳びはね、0歳児も足でリズムを取りながら参加する姿が見られました。また、製作活動では、2歳児室の棚にクレヨン、廃材、粘土などの材料をそろえ、自由に作り出して遊べるようにしています。ここに1歳児が訪れ、廃材そのものを触り楽しむ姿もあります。職員は子ども一人ひとりの表現に共感することで自信につなげ、さらに表現の幅を広げられるようかかわっています。		
	0～2歳児の発達に沿って、喃語を引き出し、季節の言葉を歌などで獲得しています		
	0～2歳児の言葉の獲得に向け、言葉かけや会話には特に留意しています。0歳児には喃語を引き出せるように、移動の際や子どもを抱っこする際には、職員から「あっちに行こうね」「今から抱っこするよ」と言葉にして伝えています。指差しや発語が見られるようになると、十分に応答し共感するよう努めています。さらに大きくなると、絵本や歌、散歩などを通して、新しい言葉や「どんぐり」「落ち葉」など季節の言葉に触れる時間を確保しています。2歳児は、畑活動を通して珍しい野菜を図鑑で調べるなどしながら、新しい言葉を獲得していきます。		
非 公表 コメント	野外活動に積極的に取り組み、心身の発達につなげています		
	0～2歳児の散歩や2歳児の畑活動などの野外活動に積極的に取り組んでいます。散歩は毎日2回、朝と夕方に出かけています。近くの公園まで歩くことに慣れてきたら、そこから徐々に距離を伸ばしていきます。11月の遠足では30分ほどかけて豊洲公園まで歩きました。また、畑活動は週2回行い、園バスで畑まで移動して、にんじんやそらまめなどを育てています。畑では時間帯によっては系列園の子どもたちと出会え、野菜について虫を見つけてはみんなで集まり観察するなど、社会性や好奇心をはぐくむ機会にもなっています。		
評価項目3の講評補足			

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	
	あり	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	
	あり	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	
評価項目4の講評			
公表 コメント	「どろんこ祭り」で花火の作品をみんなで作り上げ、鑑賞して達成感を味わいました		
	地域交流の一環として、夏に「どろんこ祭り」を園で開催し、親子製作のうちわ作りやゲームコーナーなどを楽しみました。今年度は園内の装飾として、0～2歳児全員が参加して、一人ひとりの手形を花火に見立てた大きな製作を行いました。黒色の大きな模造紙を用意し、手のひらに好きな色の絵の具をつけて模造紙に押し付けていきます。この製作中にも祭りを楽しみにする姿が見られ、完成すると壁いっぱいの花火をみんなで見上げて鑑賞しました。祭りの終了後も環境はそのままにして、ゲームなども保育に計画し、みんなで余韻を楽しみました。		
	運動会や徒歩遠足、誕生日会などさまざまな行事に興味をもって参加しています		
	園では行事を子どもの日常生活の延長線上に位置づけ、月1回の徒歩遠足、年2回のバス遠足、誕生日会、どろんこ祭り、運動会、生活発表会などを行っています。今年度の運動会では、競技のたびに異年齢の子どもたちが一体となって、みんなを応援する姿が見られました。特に2歳児が一人ずつみんなの前で走る障害物競争では、ひときわ大きな声援が送られました。その様子を見て競技に出たくないと言っていた子どもが前向きな気持ちに変わるなど、子どもたちの成長が感じられる行事となりました。		
	園行事には保護者の参加を促し、当日は保護者に向けて活動の意図を説明しています		
	年間の行事予定を毎年4月に保護者に配信し、参加調整をしやすくするようにしています。保護者には行事を通して、職員が見せたい子どもの姿を見てもらうのではなく、成長した姿を見て保護者と園が一体となって喜ぶことを目指しています。行事に向けて取り組む姿は日々の会話や連絡帳などで伝え、保護者も当日を楽しみに待てるようにしています。運動会では、保護者に向けて競技説明を行う際に、テーマやねらいとともに「子どものこういう姿をみてほしい」ことを伝え、さまざまな視点で子どもの成長を感じてもらえるよう工夫しています。		
非 公表 コメント	評価項目4の講評補足		

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	
	あり	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	
評価項目5の講評			
公表 コメント	体を十分に使って遊んだ子どもたちがゆったりとくつろげるスペースを用意しています		
	ワンフロアの保育室内に子どもが落ち着けるスペースを確保しています。子どもたちは、毎日、朝のリズム体操をはじめ散歩や公園遊びなどで体を十分に使って活動しています。そのため、疲れてしまった子どもがゆったりと過ごせるように、ソフトマットを敷いて絵本も読めるスペースや、机上遊びができるようにあらかじめ机を設置した場所を用意するなどの配慮をしています。また、ままごとセットの近くにミニソファを設置するなど、家庭的な雰囲気も大切にして、落ち着いて遊べるように環境を整えています。		
	人数の少なくなる時間帯はスキンシップをとるなど安心できるようなかかわっています		
	朝7時から8時までの早朝保育、18時から20時までの延長保育を行っています。これらの時間帯には、疲れの見られる子どもや、眠そうになっている子どもがいます。職員は子どもの様子や体調の変化を見逃さないようにして、いつでも布団を用意するなど個々に応じた対応を心がけています。18時以降の延長保育では、19時に夕食を提供しています。子どもが徐々に少なくなり寂しくなってしまう気持ちに配慮して、職員は積極的に1対1のかかわりを持ち、スキンシップをとって子どもが安心してお迎えを待てるようにしています。		
非 公表 コメント	評価項目5の講評補足		

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
	あり	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
	あり	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	
	あり	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	
評価項目6の講評			
公表 コメント	食事の時間は、個々の発達に応じて「自ら食べたい」意欲をはぐくめるようにしています		
	食事の時間は、「自ら食べたい」という意欲を大切にしています。0歳児には手づかみ食べを積極的に行い、食事に興味を持てるように援助しています。1歳児はスプーンやフォークに興味を持ち挑戦し始めます。2歳児になると食器を自分で運ぶようになり、汁物をこぼさないようなお椀の持ち方や、運ぶスピードを習得していきます。職員は見守る姿勢を基本とし、適時に手を貸しています。なお、アレルギーのある子どもには、手順に従って食材のダブルチェック、トレイの色を変えるなどして提供し、席を別にして誤食を防いでいます。		
	和食を中心とした日常の献立や特別感のある行事食などをバランスよく提供しています		
	給食の献立は、どろんこ会グループが作成した2週間サイクルメニューとしています。和食を基本として旬の食材を使い、だしを利かせた薄味にして食材本来の味が引き立つようにしています。また、食材は乳児だからと全てを刻むのではなく、献立に応じて大きさにメリハリをつけるなど工夫しています。日々の喫食状況は記録し、月1回の給食会議で全職員で共有しています。洋食を取り入れた特別感のある行事食も提供しています。10月の誕生会ではおやつにりんごケーキを提供し、11月の遠足では豊洲公園の芝生の上でみんなでお弁当を食べました。		
非 公表 コメント	0歳児から野菜に触れ、2歳児は畑仕事に取り組むなど食育活動が充実しています		
	栄養士が中心となり年間食育計画を立てています。0～2歳児を「6か月未満」「6か月～1歳3か月未満」「1歳3か月～2歳未満」「2歳児」に区切り、それぞれの子どもの姿に沿った内容としています。調理保育では、6か月未満は食材に触れることから始め、2歳児は米研ぎ、玉ねぎの皮むき、野菜洗いなどを経験します。また、2歳児は週2回の畑仕事に取り組む、夏に収穫したオクラは、給食のカレーにして提供しました。このような食育の様子はポートフォリオにして保護者に見てもらい、子どもの成長を共有する機会となっています。		
	評価項目6の講評補足 給食時の子どものおかわりの際の提供方法について、今一度子どもの目線に立って確認されると良いでしょう。また、アレルギー食の子どもがより安全に食事をできるようにするためにも、テーブルには職員が常時つくなどの対応が望まれます。		

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している	評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目
	あり	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している
	あり	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている
	あり	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている
あり	4. 子どもの入退所により環境に変化がある場合には、入所している子どもの不安やストレスが軽減されるよう配慮している	
評価項目7の講評		
公表 コメント	年間を見通して子どもが心身ともに健康に園生活を送れるよう支援しています	
	施設長が中心となり園の保健計画表を作成しています。各月の目標、保健指導・活動、保育者の留意点、園内研修が計画され、月々の省察を記入しています。例えば9月は目標を「生活リズムを整える」とし、保育者の留意点を「夏の疲れに注意し健康状態を把握」とするなど、計画に一貫性を持たせられるような内容になっています。なお、嘱託医による内科健診は、全園児を対象に年2回実施しています。嘱託医には、子どもの健康で気になることがあれば、そのつど相談をしています。	
	0～2歳児の発達に応じた言葉がけや活動を取り入れ健康や安全につなげています	
	0～2歳児の発達に応じた保健指導に取り組んでいます。おむつ替えの後や食後の口拭きの際に「きれいになったね」など言葉にすることで、清潔にすることの気持ち良さを共感できるようにしています。手洗い指導は0歳児から、歯磨き指導は1歳児の1月から開始して、衛生的な生活習慣が身につくようにしています。0～2歳児全員が参加するリズム体操では、跳んだりしゃがんだりする動きを通して、転んでも先に手をつけるようなけがをしにくい体づくりを行っています。日課の散歩では、歩行距離を徐々に伸ばして足腰を丈夫に鍛えています。	
非 公表 コメント	保健情報は各種お便りなどを通じて保護者に知らせ共通理解を図っています	
	毎月発行する「保健だより」「ポピンズだより」などを通して、健康的に過ごせる服装、与薬の流れ、熱中症が疑われる際の対応などさまざまな保健情報を保護者に知らせています。乳幼児突然死症候群の予防については睡眠時チェックを全園児に行い、午睡時の寝具は寝返りしやすい硬めの布団を推奨することをお便りで知らせています。また、園内で感染症が発生した際には、どろんこ会グループで作成した対応フローチャートに基づいて対応し、保護者には連絡アプリや玄関掲示で状況と感染対策などを伝え、さらに流行拡大しないよう呼びかけています。	
評価項目7の講評補足		

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	
	あり	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	
	あり	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	
	あり	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
	あり	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	
評価項目8の講評			
公表 コメント	保護者にとって園が憩いの場となるように、気持ちに寄り添った対応に努めています		
	園が保護者にとって憩いの場所となるように、保護者一人ひとりの気持ちに寄り添い、傾聴を基本としたコミュニケーションを図っています。個別面談の要望があれば応じ、一方で園生活で子どもに気になる様子があれば、職員から保護者に声をかけ、家庭での様子も聞いて相互理解につなげています。保護者からの問い合わせには、あいまいな回答をしないことを徹底し、施設長や他職員に確認したうえで回答し信頼関係を構築しています。また、保護者の就労事情にも理解を示し、急な延長保育の申し込みにも、受け入れ態勢があれば夕食含め受け付けています。		
	保護者を主体とした保護者懇談会では、語り合いを通して親睦を深めています		
非 公表 コメント	保護者間の交流を目的に、毎年6月と11月に保護者懇談会を開催しています。あくまでも保護者主体の会になるように、園から保護者に伝える内容は短時間にとどめ、保護者同士が語り合える時間を十分に確保しています。園からは軽食を提供して打ち解けやすいきっかけを作り、職員はどの保護者もまんべんなく発言できるように、頃合いを見て会話に入っていくなどサポートしています。子どもの育ちや保育活動の詳細は、保護者との日々のやり取りをはじめポर्टフォリオや製作物の掲示、園行事への参加などを通して伝えられるように努めています。		
	レシピカードの提供や講習会開催など、保護者の養育力向上に資する支援に努めています		
	「食」「保健」などの観点から保護者の養育力向上を図っています。「食」では栄養士がレシピカードを作成して玄関に設置し、保護者が自由に持ち帰れるようにしています。分量は子ども1人分に合わせていますので、参考になると好評です。「保健」では5歳児の保護者を対象に、「幼児期からの性教育」をテーマに施設長が講習を行いました。そのほか子育て支援活動として開催する親子遊びなども情報誌「ちきんえっぐだより」を通して紹介し参加を勧めています。保育参加は随時受け付けていますが現時点で申し込みがないため、宣伝の工夫が望まれます。		
評価項目8の講評補足			

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
	あり	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
評価項目9の講評			
公表コメント	近隣の公園や商店街で定期的に地域の子どもやおとなと交流する機会があります		
	子どもたちは近隣の公園や消防署、商店などを訪れ、地域の子どもやおとなと交流しています。子育て支援活動として月1回実施している青空保育では、公園で絵本読みを行う職員のもとに集まってきた地域の親子とお話を聞いたり、お話が終わった後もいっしょに遊んだりしています。商店街ツアーでは地域の商店を訪れ、店内の様子を見学し、そこで働く人々と言葉を交わしています。消防署を訪れた際には、子どもたちの大好きな消防車を間近で見ることができ大喜びでした。そのほか、日課としている散歩で出会う人々に挨拶をしています。		
	園行事、職場体験、保育実習などで子どもたちは職員以外の人々と触れ合っています		
	園主催の「どろんこ祭り」は、地域交流をねらいとして毎年園で開催しています。地域の親子に気軽に遊びに来てもらえるように、児童館などの協力も得てチラシやポスターで告知し、今年度は当園の卒園児を含め10組の親子の参加がありました。また、園では小中学生からは職場見学や職場体験、専門学校からは実習生を積極的に受け入れています。今年度は10名を受け入れ、子どもたちは職員以外の人々と存分に触れ合うことができました。現在はコロナ禍で見合わせていますが、園ではさらに近隣の小学校や高齢者施設との交流も計画していく考えです。		
評価項目9の講評補足			
非公表コメント			

調査対象	保育園を利用している28世帯を対象に調査を実施しました。在園児は30名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢の一番低い子どもについて回答してもらいました。		
調査方法	アンケート調査は無記名方式で、配付は施設を通じて利用者へ手渡し、回収は保護者から直接評価機関へ郵送する方法によりました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、保育園に報告しました。		
利用者総数	30		
利用者家族総数(世帯)	28		
共通評価項目による調査対象者数	28		
共通評価項目による調査の有効回答者数	21		
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	75.0%		

利用者調査全体のコメント

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が15人(71.4%)、「満足」が5人(23.8%)で「満足」以上の回答は合計20人(95.2%)でした。

自由意見には、「職員の方が愛情を持って子どもに接して下さっているのがよくわかり、感謝しております」「感謝で頭が上がりにません。3歳以降も本当はたくさん受け入れていただけると良いと思っています」「非常に満足しています」「先生方がお迎えの時にその日の様子をていねいに伝えてくれるので助かります」「先生方の対応や、子どもとのかかわりに感謝でいっぱいです。子どもも先生のことが大好きです」「広々としていて子どもたちも自由に動き回れて良いです」など園への信頼と感謝を寄せる声が多く見られました。

項目別に見ますと、「提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか」で100.0%、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」「職員の接遇・態度は適切か」「子どもの気持ちを尊重した対応がされているか」「子どもと保護者のプライバシーは守られているか」で95.2%の保護者がそれぞれ「はい」と回答し、とても満足度が高い様子が読み取れます。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
コメント				
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	20	0	1	0
「はい」が95.2%、「いいえ」が4.8%でした。 自由意見には、「家でも、ダンスをしたり、歌をうたったりするようになりました」「家でも一人で着替えようとする姿がよく見られます」「役立っていますし、その様子を教えてもらえるので大変ありがたいです」「保育園でお友だちがたくさんできて、嬉しく通っています」「水遊び、砂遊びを教えてください、怖がることなくチャレンジする精神を鍛えてくださると嬉しいです」「異年齢ミックスでいろんな年代の子どもとかかわりを持てます」などの声がありました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	19	2	0	0
「はい」が90.5%、「どちらともいえない」が9.5%でした。 自由意見には、「砂遊びなど大好きになったので、園での活動のおかげだと思っています」「アプリ内で更新される写真(アルバム)や園内掲示の写真などからもその様子がよくわかります」「子どもが保育園を大好きなのが、園がすばらしいことを証明していると思います」「水あそび・泥あそびを思う存分体験させてくれます」などの声がありました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	21	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「とてもおいしそうです！」「毎回、ほぼ完食なので、おいしいお食事を提供していただいているだと思います」「毎月配付される献立表もおいしそうですし、アプリにアップされる写真や園内掲示にレシピもあり、豆知識も豊富で参考になります」などの声がありました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	19	2	0	0
<p>「はい」が90.5%、「どちらともいえない」が9.5%でした。 自由意見には、「お花や虫の観察や、畑仕事、野菜収穫など、日頃からたくさん機会が得られています」「週2回バスで畑に行くのが良いです。都内でこの経験ができるのはとても貴重です」「自然とたくさん触れ合い、お散歩によく連れて行ってくれるところが良いです」などの声がありました。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	17	2	0	2
<p>「はい」が81.0%、「どちらともいえない」が9.5%、「無回答・非該当」が9.5%でした。 自由意見には、「とても申し訳ない気持ちでいっぱいですが、快く電話を受けていただいたことがあります」「とても柔軟に対応してくれます」「アプリからの連絡も可能です」などの声がありました。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	15	6	0	0
<p>「はい」が71.4%、「どちらともいえない」が28.6%でした。 自由意見には、「設備面でも保育士のオペレーション的にも十分取られているように見えます」などの声がありました。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	18	1	1	1
<p>「はい」が85.7%、「どちらともいえない」が4.8%、「いいえ」が4.8%、「無回答・非該当」が4.8%でした。 自由意見には、「保護者会は平日夜、夏祭りや運動会は土曜開催で大変ありがたいです」などの声がありました。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	19	1	1	0
<p>「はい」が90.5%、「どちらともいえない」が4.8%、「いいえ」が4.8%でした。 自由意見には、「保育士のみなさん、担任以外でも毎日よく子どもの様子を見て共有してくれます」「先生達がとても優しく、子どもも安心して楽しく登園しています。先生にとっても懐いているので、親も安心して預けられます」などの声がありました。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	16	4	1	0
<p>「はい」が76.2%、「どちらともいえない」が19.0%、「いいえ」が4.8%でした。 自由意見には、「朝早くから、皆さんで迎え入れの準備、整理整頓など、ぱっちりです」「園内が清潔です」などの声がありました。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	20	1	0	0
<p>「はい」が95.2%、「どちらともいえない」が4.8%でした。 自由意見には、「十分に適切に接していただいています」「先生方が親切です。子どもにも親にもきちんと対応してくれている」などの声がありました。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	19	1	0	1
<p>「はい」が90.5%、「どちらともいえない」が4.8%、「無回答・非該当」が4.8%でした。 自由意見には、「先日もきちんと報告していただきました」「一人ひとり、十分によく見て対応してもらっています。ぶつけた、おもちゃがあたったなど、細かいところまでよく見えています」などの声がありました。</p>				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	16	3	1	1
<p>「はい」が76.2%、「どちらともいえない」が14.3%、「いいえ」が4.8%、「無回答・非該当」が4.8%でした。 自由意見には、「おもちゃが当たってしまった程度で、まだトラブルはないですが、十分信頼できると思います」などの声がありました。</p>				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	20	1	0	0
<p>「はい」が95.2%、「どちらともいえない」が4.8%でした。 自由意見には、「登降園時の様子だけでも、子どもたちにしっかり向き合っている様子がわかります」「子どもたち一人ひとりに寄り添っていただけていることがよく分かります。いつもありがとうございます」などの声がありました。</p>				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	20	1	0	0
<p>「はい」が95.2%、「どちらともいえない」が4.8%でした。 自由意見には、「他の子どものプライバシー配慮を感じるので、自分たちのプライバシーも守ってくれている感じを受けます」などの声がありました。</p>				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	19	1	1	0
<p>「はい」が90.5%、「どちらともいえない」が4.8%、「いいえ」が4.8%でした。 自由意見には、「口頭説明、連絡帳、園内掲示も含めて、とてもわかりやすいです」などの声がありました。</p>				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	19	1	0	1
<p>「はい」が90.5%、「どちらともいえない」が4.8%、「無回答・非該当」が4.8%でした。 自由意見には、「毎回きちんと対応いただいている印象です」などの声がありました。</p>				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	15	4	2	0
<p>「はい」が71.4%、「どちらともいえない」が19.0%、「いいえ」が9.5%でした。 自由意見には、「園入口に法人への要望箱や、アプリやHPを通じて、周知はとてもわかりやすいです」などの声がありました。</p>				